

令和7年度 普及指導活動の実績

君津地域の多様な農業の振興



令和8年3月

君津農業事務所

【 表紙の写真 】

湿地性カラーのほ場

千葉県育成品種

「Brilliant・Bell」の生産

(君津市)

高温対策試験

レタスの定植時の資材を変えた栽培試験

(袖ヶ浦市)

食用ナバナの現地ほ場視察

露地野菜の新規栽培者へ技術向上のため

(全域)

梨のせん定講習会

～新規生産者・女性農業者の技術向上～

(木更津市)

発刊に当たって

令和7年度は、夏（6～8月）の暑さや米価の高値での取引など、記録的な年となりました。

日本の夏平均気温偏差は3年連続で最も高い値を記録し、千葉県においても、6月と8月の平均気温が歴代最高値を観測しました。また、多くの地方で過去最も早い梅雨明けとなるなど季節進行が早く、記録的な少雨となりました。木更津市でも、8月の合計降水量は49.0mm、8月12日～9月3日まで雨の降らない日が20日以上続き、秋野菜の作付けに影響がでました。このような中、改良普及課では、水稻、野菜、花き、酪農の各部門で生産者や関係機関と連携して、高温対策試験に取り組み、この結果を各部会の方々と共有しました。

また、君津地域農林業振興方針（令和4～7年）の最終年として、園芸品目の振興や若手・女性農業者の育成、水稻大規模経営体への経営支援等、地域農業の振興と経営体の強化を推し進めました。具体的には、梨の栽培講習会を通じた新規参入者や女性農業者の交流促進、食用ナバナ、ミモザの新規生産者への支援、地域の水稲担い手の法人化支援など、それぞれの地域の課題に取り組みました。本冊子に、1年間の活動成果として取りまとめましたので、今後の事業推進に活用いただければ幸いです。

終わりに、普及事業に対して深い御理解と御協力をいただいた関係機関及び関係者の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、今後ともより一層の御支援を賜りますようお願いいたします。

令和8年3月

千葉県君津農業事務所長 吉村 直美

目 次

1 普及活動の成果

- (1) 湿地性カラー産地の維持発展に向けて …… 2
 - 千葉県育成品種「Brilliant・Bell」の普及と販売力の強化 —
 - 【千葉県普及活動成果発表大会発表】**
- (2) 水稲経営体の法人化を支援しました …… 5
 - 財務診断、事業計画作成から法人登記までの伴走支援 —
- (3) 「きさらづ学校給食米」の安定生産に向けた栽培技術向上 …… 8
 - 水田用除草機の活用指導と有機 JAS・GAP セミナーの開催を通して —
- (4) 食用ナバナを露地野菜の新たな振興の柱に！ …… 10
 - 新規栽培者の発掘から出荷までの伴走支援 —
- (5) 木更津市の梨産地の維持・発展に向けて …… 13
 - 新しい担い手や女性農業者の技術向上とコミュニティの構築 —
- (6) 秋どりレタス、キャベツの安定生産に向けて …… 16
 - 育苗時及び定植後の暑熱対策の検討 —
- (7) 酪農経営における暑熱対策の検討 …… 20
 - 夏季の乳量低下の抑制を目指して —

2 普及現地情報（一般情報）

- ・イチゴ若手生産者でのぼり旗を作成しました！（5月13日発） …… 25
- ・高温対策資材研修会を実施しました！（9月24日発） …… 26
- ・ナバナの生産振興に取り組んでいます！（12月18日発） …… 27
- ・君津をミモザの産地に！（1月28日発） …… 28
- ・水稲栽培講習会を実施しました！（2月9日発） …… 29

3 令和7年度の主なできごと …… 30

1 普及活動の成果

(1) 湿地性カラー産地の維持発展に向けて

—千葉県育成品種「^{ブリリアント・ベル}Brilliant・Bell」の普及と販売力の強化—

君津農業事務所改良普及課

活動事例の要旨

湿地性カラーの千葉県育成品種「Brilliant・Bell」のデビューにあわせ、関係機関と連携して栽培マニュアル策定や市場調査など、栽培の普及拡大に取り組んだ結果、君津市における栽培面積は順調に拡大した。

カラー出荷組織の一つである、君津市小糸花卉園芸組合において、市場から強く要望を受けているセリ前の出荷情報発信に向け、体制づくりを支援した結果、セリ2日前出荷分の単価の向上につながった。

1 活動のねらい・目標

君津市は湿地性カラーの日本有数の産地であり、豊富な地下水を利用して、水田に建てたパイプハウスで栽培が行われ、秋から翌年春まで出荷している。しかし、担い手の高齢化により、年々生産量は減少傾向にある。

そうした中、令和3年にデビューした千葉県育成品種「Brilliant・Bell」は、早生品種で単価の高い年内から出荷が可能で、花が小ぶりで茎が細い特性がブーケなどの花材として期待されていたことから、「Brilliant・Bell」の導入・普及支援による湿地性カラーの生産拡大、産地の活性化を目指した。

また、当産地では鮮度を重視し出荷直前まで収穫する傾向があるため、君津市は首都圏に近いのに反し、市場に出荷情報が届くのが遠隔産地に比べて遅く、予約相対販売に乗せられない等の問題を抱えていた。そこで、市場から強く要望されているセリ2日前の出荷情報の発信について体制づくりを行い、有利販売につなげることを目標とした。



写真1 ほ場の「Brilliant・Bell」

2 活動の内容

(1) 「Brilliant・Bell」の栽培技術の確立及び普及

ア 切り花の特性調査による出荷規格の策定

「Brilliant・Bell」は既存品種と草姿が異なるため、令和2～3年度の現地課題調査研究において切り花の特性調査を行った。

調査結果を元に、秋と春の高温期には鮮度保持剤を使用することとし、



写真2 既存品種との比較

市場からの意見を踏まえ出荷規格を策定した。

イ 栽培マニュアルの策定

令和5年度に栽培マニュアルを策定し、既存品種との違いに着目した栽培方法を、現地試験結果を踏まえて栽培講習会等で丁寧に説明し、細かい管理の違いやほ場適正など新規栽培者が抱える不安を払拭した。

また、株を植えてから養成期間が2年程度必要であると紹介されているが、生産者が独自に行った増殖試験から、2年目で出荷可能となる方法がわかり、生産者に情報提供した。

ウ 市場・実需者評価の調査

主な取引先市場、実需者（花き専門小売店）に「Brilliant・Bell」の評価の聞き取りを行った結果、「小ぶりで使いやすい」、「日持ちに関してクレームはない」、「知名度は市場・仲卸・小売店で広まっている」、「咲く過程が楽しめる」などと高評価だった。この内容を生産者にフィードバックしたところ、モチベーションが上がったという声も聞かれた。

（2）セリ前情報の発信による有利販売支援

ア 市場からの要望の整理

J Aきみつと連携し、J Aの販売に関する情報の整理、取引先の花き市場7社への聞き取りを実施し、予約相対販売に乗せられるよう、J Aから市場へのセリ前情報発信の送信時間や内容を整理した。

イ 先進地視察

君津市小糸花卉園芸組合では、生産者間でセリ前情報発信への意識のばらつきがあったことから、J A職員、組合役員と共に、千葉県内で有利販売を実践し市場評価が高い先進産地（J A安房神戸支店）の視察を行った。

J A安房神戸支店ではセリ2日前情報発信の徹底により、販売期間が延びて平均単価が上がったこと、市場からの要望に応

えることで産地の信用力が上がったことがわかった。視察に同行した役員からは、市場の販売の仕組みがよくわかった、という声が聞かれ、セリ前情報発信の重要性への意識醸成につながった。



写真3 先進地視察の様子

ウ 情報発信のルール設定

市場からの要望を元に、セリ2日前出荷情報を発信するため、J Aの担当者と連携を密にとり、集出荷情報アプリの導入を生産者に促し、生産者の入力期限のルールを設定した。ルール設定の際には、視察に参加した役員から他の生産者へ取組のねらいを説明した。

エ 日持ち試験

収穫から出荷までの冷蔵庫保管日数を1～5日に変えた日持ち試験を実施したところ、日持ち日数に大きな差がなかったことがわかった。こ

のことから、出荷最盛期には、湿地性カラーの出荷をセリ1回分遅らせて冷蔵庫保管をしても品質に大きな影響はなく、出荷量の平準化が可能となることが示唆された。これにより、相場下落時の出荷調整が可能となり、単価の向上につながることを期待される。

3 活動の成果

(1) 「Brilliant・Bell」の普及拡大

販売先の高評価をうけ、実需者に受け入れられるのかという当初産地から聞こえた不安の声もなくなった。

「Brilliant・Bell」は茎が細いため収穫時の作業性がよく、「高齢の生産者にも扱いやすい」、「収量性も高い」と生産者からも好評であり、令和6年度には生産者数20名、栽培面積52.8aまで生産拡大した。

(2) セリ前情報の発信による有利販売

君津市小糸花卉園芸組合では、生産者のセリ前情報発信の重要性への意識が高まり、アプリの入力に取り組んだ結果、同日の同品種・同等級の、セリ2日前販売の単価が、通常の出荷情報による市況単価より、平均5円高くなり、有利販売が実証された（株式会社大田花き出荷分、全品種・等級の平均、令和7年1～4月）。

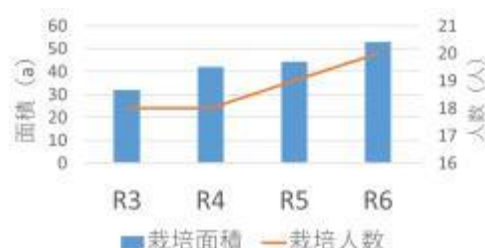


図1 「Brilliant・Bell」の生産の推移

表1 2日前販売の単価と市況単価の差額

年月	2日前販売の単価－市況単価(円)
R7.1	+2
R7.2	+4
R7.3	+5
R7.4	+8
期間全体の平均	+5

4 将来の方向と課題

「Brilliant・Bell」は各生産者のほ場で株の養成が進んでいるため、今後出荷量は増えていく見込みである。一方で、改植に手間がかかることが面積拡大のボトルネックとなっている。君津市小糸花卉園芸組合では改植作業の請負体制づくりを検討中であり、高齢の生産者の負担が減ることが期待される。また、担い手の高齢化が進む中、新規就農者や後継者が3名おり、早期の技術習得の支援も必要である。

君津市小糸花卉園芸組合では県事業を活用して試験輸出を開始しており、特に出荷最盛期の価格の下支えが期待されている。今後、輸出先でのニーズの確認、輸出業者との円滑な情報共有など戦略的な販売活動が重要となる。

また、近年の夏季の酷暑の影響で株傷みや腐りが発生し、年内の湿地性カラーの出荷量に影響を与えている。令和7年度は、暑熱対策実態調査として、他県への聞き取り、生産者アンケートを行うとともに、暑熱対策の現地試験等で対策を検討している。

(2) 水稻経営体の法人化を支援しました

— 財務診断、事業計画作成から法人登記までの伴走支援 —

1 活動のねらい

規模拡大に伴い法人化を検討する水稻経営体等に対し、法人設立を伴走支援することで、経営安定、雇用の導入に繋げ、地域の担い手として更なる農地の集積に対応する経営体の育成を進めた。

2 課題の背景

高齢農家の規模縮小又は離農により担い手へ農地が集積し、水稻経営体の規模拡大が進んでいる。経営規模が拡大した場合、法人化することで経営管理能力や対外信用力の向上、人材確保や経営継承が円滑化するといったメリットがある一方、そのタイミングの見極めや手続きを農家だけで行うのはハードルが高く、思うように進まないことが多い。そこで、規模拡大が進み法人化の意向がある経営体に対し、専門家の派遣等を通じて法人設立の伴走支援を行った。

3 普及活動の経過

(1) 集落営農組織 A の法人化支援

富津市天羽地域では、令和 5 年度に地域の大規模水稻農家や園芸組合の役員ら 30～50 代の担い手 5 名が集まって任意組織 A を立ち上げた。その後令和 7 年度までは個人の経営を中心としつつ野菜部門の協業を行っていた。一方、当該地域は水田が多く、高齢化に伴う担い手不足が深刻化している。また、中山間に位置しているためほ場が点在しており、獣害も問題となっている。そこで、地域の農地を守るため、当該組織において水稻部門も令和 8 年から協業化することとなった。話し合いの結果、組織運営体制の構築、農地の集積を円滑に進めるため、令和 7 年度内に農事組合法人の設立を目指すこととなり、伴走支援を行った。

ア 法人化に向けた専門家派遣・先進地視察

法人登記に関する基礎知識の習得及び登記申請書類の作成支援を目的に、千葉県農業会議職員の派遣を要請した。7 月と 11 月に 2 回派遣を行い、1 回目は基礎知識の習得と設立予定の法人の概要のすり合わせを行った。2 回目は登記申請書類の作成支援を行った。派遣時間は限りがあるため、疑問点については後日農業事務所を通じて行うなど調整役を担った。

また、法人化後の組織運営、役割分担について学ぶため、先進地視察研修を開催した。視察先の選定に当たっては、自身の経営に参考となる話が具体的に聞けるよう、世代が近く設立経緯が近い法人を選定した。法人化後の組織運営のイメージが付くよう、構成員の役割分担や、従事分量配当の分配方法などを学んだ。

イ 令和 8 年以降の体制整備に向けた支援

水稻部門の協業化に向け、座談会の開催を支援した。座談会では、農地の集積や個人所有の機械の取扱い、組織の役割分担等について話し合いを行った。座談会で決まった内容については、営農計画書を作成し配付することで、構成員内で共通認識を持たせることに注力した。



写真1 座談会の様子



写真2 先進地視察研修の様子（旭市）

（2） 家族経営体の法人化支援

富津市内の水稻経営体は規模拡大が進み、地域の担い手の中には 20～35ha 規模の経営体が多く、一部 50ha を超える経営体もある。これらは経営主の高齢化に伴う世代交代や従業員の確保など、それぞれの課題を抱えている。令和 7 年度では、これら課題の解決に伴い法人化を希望する 3 経営体に対し支援を行った。

ア 従業員の安定確保に向けた法人化を希望する経営体 B の支援

令和 7 年 1 月から雇用を導入した 25ha 規模の経営体 B に対し、継続した従業員の確保を目的に法人化に向けた支援を行った。法人化には規模がやや小さいため中小企業診断士による経営診断を行い、法人化して問題ない旨を確認した。法人設立に当たって定款の作成を支援し、司法書士の助言を受けながら資本金の現物出資の手続き等について指導した。

イ 規模拡大・事業承継に伴い法人化を希望する経営体 C の支援

規模拡大及び事業承継を希望する 30ha 規模の経営体 C に対し支援を行った。千葉県農業会議に協力を要請し、法人化によるメリット・デメリット、登記手続き等の基礎知識の習得支援を行った。その後、農業会議の協力の下定款や登記申請書類の作成支援を行った。また、中小企業診断士の派遣を通じて経営診断や事業承継時の注意点について助言を行ったほか、社会保険労務士の派遣を通じて社会保障制度や将来的な雇用の受入れ体制整備について助言を行った。

ウ 事業承継に伴い法人化を希望する経営体 D の支援

50ha 規模の経営体 D では、経営主の高齢化に伴い事業承継を予定している。事業承継に伴い法人化を希望しており、これらの支援を行った。本経営体への支援は経営コンサルティング事業を活用した。担当税理士の派遣を 3 回行い、事業承継や法人登記の手続きに関する助言、経営状況の確認や SWOT 分析による強みと弱みの把握、将来目標の設定、資金繰り表や作付計画の作成を支援した。

4 普及活動の成果

（1） 集落営農組織 A の法人化支援

座談会の開催支援を通じて、集約するほ場の整理や役割分担、個人所有の機械の取扱いなどの協議が円滑に進んだ。営農計画の作成では、規模別の収支試算表を作成することにより、当該法人がまず 5 年後に目指すべき規模が明確となったことで円滑に協議を進めることができた。また、世代や設立経緯の近い農事組合法人の視

(3) 「きさらづ学校給食米」の安定生産に向けた栽培技術向上

— 水田用除草機の活用指導と有機 JAS・GAP セミナーの開催を通して —

1 活動のねらい

木更津市では、化学合成農薬・肥料を使用しない「きさらづ学校給食米」の栽培を推進している。令和6年に導入された乗用型水田除草機の効果を最大限発揮するため、初年度は除草効果と水稻の生育状況の検証および栽培技術研修を実施した。令和7年度は、生産者自らが圃場の雑草発生程度を基に除草適期を的確に判断する技術の習得を目的に、現地研修を開催した。

また、有機農業に不可欠な「栽培記録管理」の重要性を普及させ、実践的かつ継続しやすい農作業記録様式の提供を通じて、日常的な記録管理の定着を図った。

2 課題の背景

令和6年の「きさらづ学校給食米」の栽培面積は約33ha（前年比7ha増）まで拡大した。土壌条件や水管理の成否により雑草管理が困難な圃場も見られることが、安定収量の確保において課題のひとつとなっている。

さらに、有機農業の推進には生産工程の記録管理が必須であるが、現状では生産者間で書類の質にばらつきがある。事務負担を軽減しつつ、認証審査にも使用可能な栽培記録の標準化と作成能力の向上が、関係機関からも求められている。

3 普及活動の経過

(1) 水田用除草機の使用適期を学ぶ現地研修会

導入初年度（令和6年度）の調査において、一部の圃場で除草効果が低い事例が確認された。聞き取りの結果、除草適期を過ぎ、雑草の生育が進んだ状態で除草作業を行ったことが原因であると考えられた。そこで、生産者圃場において、雑草の初期発生状況を的確にとらえるための研修会を開催した。研修会では、田植7～10日後を目安に圃場に入って土をすくいあげ、雑草の生育を確認することで水田除草機の使用適期を判断する方法を指導した。



写真1 除草実施時期の雑草(令和6年6月) 写真2 除草効果が低かったほ場(令和6年8月)

(2) 有機 JAS & GAP 対応セミナー(全2回)

今後も生産者の増加が見込まれる中、有機 JAS 認証審査員を講師に招き、セミナーを開催した。有機 JAS 及び GAP の観点から農作業記録への理解を深め、記録様式の統一による事務負担の軽減と関係機関との情報共有の円滑化を図った。また、有機 JAS 認証審査の流れを理解するためのロールプレイング研修を実施した。

4 普及活動の成果

(1) 水田用除草機の使用適期を学ぶ現地研修会

研修会参加者からは、土のすくい方や雑草の見つけ方、コナギとホタルイの見分け方等について活発な質疑が行われた。さらに、栽培技術の高い生産者による水田用除草機の実演とアドバイスを通じ、他の生産者も理解が深まった様子であった。

また、移植後の浅水管理と深水管理の比較も行い、深水管理では雑草発生が抑えられている様子が確認でき、有機栽培における水管理の重要性を深めることができた。



写真3 ぼ場の雑草を確認する様子



写真4 除草機の実演

(2) 有機JAS&GAP対応セミナー（全2回）

参加者アンケートでは、「有機JAS取得に向けての心構えができた」「審査の具体的な流れを把握できた」との回答が多く、特にロールプレイングによる模擬審査は、実際の審査への不安解消に寄与した。



写真3 研修会の様子

5 今後の発展方向と課題

栽培面積は拡大傾向にあるものの、目標とする全量供給や目標収量（420kg/10a）の達成には至っていない。一方で、2回以上の代かきと深水管理による抑草指導と、水田用除草機の活用指導の効果により、一部の生産者では雑草管理技術の着実な進歩が見られたことから、今後は、雑草対策の継続指導をしつつ、耐倒伏性品種の試作支援や新規生産者の確保にも注力し、単収の増加と栽培面積の拡大を目指していく。

6 担当グループ

中央グループ

7 協力機関

木更津市

(4) 食用ナバナを露地野菜の新たな振興の柱に！

— 新規栽培者の発掘から出荷までの伴走支援 —

1 活動のねらい

新規生産者の掘り起こしと露地野菜の生産拡大を目的に、JAきみつと連携して食用ナバナの推進を行った。初心者でも取り組みやすいように、JA育苗センターの購入苗定植の推進、畝立て講習会の開催、ほ場条件の確認と排水性改善のアドバイス、個々の巡回指導等をJAとともに伴走支援し、新規生産者の定着と新たな産地化へつなげることを目指した。

2 課題の背景

君津地域は県内でも水田率が高く、水田裏作野菜としてはレタス、食用ナバナ、ブロッコリーなどが栽培されている。土壌は粘土質が多く、排水不良による湿害が収量及び品質低下の要因となっている。レタス、食用ナバナは生産者の高齢化により生産量は減少傾向で、ブロッコリーは近年定植時期の高温乾燥により、生産が安定していない。

このような中、JAと協議し、市場ニーズが高く、栽培が比較的容易な食用ナバナに着目し、新規生産者の掘り起こしと産地強化を目的に普及活動を行った。

3 普及活動の経過

(1) 取組の方針決定

5月にJAと農業事務所で会議を持ち、進め方を協議した。新規生産者の確保を目的とし、広く掘り起こしをするとともに、ターゲットとなる後継者等へは個別に栽培を呼びかけることにした。栽培方法は夏季の高温の播種を避け、JA育苗センターと連携した苗定植とし、出荷は調製が楽で単価の安定した契約バラ出荷とすることで、初心者でも取り組みやすい内容とした。

6月にJA広報誌に推進チラシを同封し、栽培講習会を周知した(写真1)。その際、経営収支の目安を示すことで関心を高めることとした。



写真1 講習会のチラシ

(2) 栽培講習会及び畝立て講習会の開催

呼びかけの結果、広域から参加希望があり、7月に君津市と袖ヶ浦市の2回に分けて栽培講習会を開催し、40名の参加があった(写真2)。初心者向けに基礎からの講習内容とし、鍵となるほ場選定と排水改善についても説明した。JAから苗や資材の注文と出荷についての説明、全農ちばから病害虫防除、種苗メーカーから品種特性と栽培のポイントについて説明した。



写真2 栽培講習会(君津市)

野菜栽培が初めての生産者も多かったため、袖ヶ浦市農業センターの協力で8月に畝立て講習会を開催した(写真3、4)。管理機を使った畝立ての方法や土寄せ作業について説明した。レタスやトウモロコシの生産者である農業センター職員に実

演してもらい、手順やコツについて教えてもらった。また、額縁明渠の施工と意図についても説明し、排水対策についての理解を深めることとした。



写真3 土寄せ作業の実演



写真4 額縁明渠について説明

(3) 生産者個々に対する栽培指導

講習会においてアンケートを取り、出荷意向のある14名について、重点的に栽培指導を行うこととした。作付け前に全員の栽培予定ほ場をJA担当者と確認し、ほ場条件に応じた排水性や土づくり、獣害対策などについてアドバイスを行った。希望者には土壌pHのチェックも行った。

作型は標準的な10月上旬定植の「花飾り」及び「CR花かんざし」とした。定植後のチョウ目害虫等の防除のため、苗かん注薬剤処理を推進した。

作付け後は、定期的にJA担当者との巡回指導を行った。君津市、富津市、袖ケ浦市と広域となったため、改良普及課は3名のチーム体制で対応した。

(4) 既存生産者のほ場視察と出荷目合せ会の開催

12月に早生品種の出荷が始まっている袖ケ浦市の農業法人のほ場視察と、出荷目合せ会を開催した(写真5、6)。

法人代表の指導農業士から栽培概要や、摘心、収穫適期の見極め、収穫から調製の手順など説明してもらった。

出荷目合せ会では、JA担当者から、出荷規格や注意事項が説明された。JAきみつの契約バラ出荷は、シーズンを通じて価格が一定で、正味4kg(皆掛け4.8kg)のコンテナ段ボールと内袋を敷き、規格の長さに切り揃えた花茎を並べるのみである。コンテナ段ボールと内袋はJA負担である。一番の問題は花咲きなので、早めの収穫を心がけることが注意された。新規生産者の出荷は12月中旬から始まった。



写真5 ほ場視察の様子

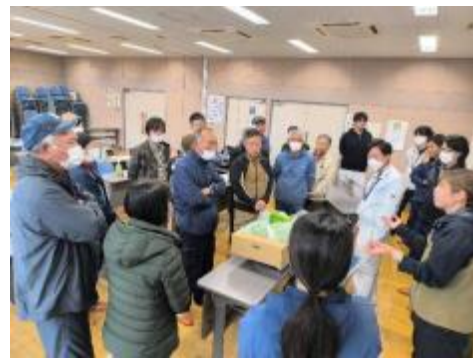


写真6 出荷規格の目合せ

4 普及活動の成果

14名に加え、秋冬ニンジンから品目転換した1名が加わり、15名（君津市10名、富津市4名、袖ヶ浦市1名）となった。作付面積は合計1.24haとなり、個々の面積は1aから20aまで様々な規模となった。JAきみつ管内では富津市天羽地区を中心に、食用ナバナの束出荷が行われてきたが、近年高齢化で約2haまで減少しており、今回の取組で6割増となった。

苗定植と苗かん注薬剤処理により定植後は順調に生育したが、11月から2月上旬までまとまった降雨が無かったため生育が停滞し、規格の花茎長に達せず、開花させてしまうほ場もみられた。野菜の栽培経験のある生産者は、かん水を実践し、安定して出荷できた。バラ出荷は調製作業が楽な点が評価された。

5 今後の発展方向と課題

初年度であったことから、栽培管理で失敗もあったが、取り組んだ生産者は意欲が高く、若手後継者を中心に規模拡大の意向もある。今年度の失敗点を振り返り、ポイントを整理するとともに、地域の栽培体系を確立する必要がある。

また、稲刈りが一段落してからの定植作業となるため、大規模水稻経営の周年雇用活用の冬季品目として推進している。その他、君津市小櫃地区ではレタス栽培を辞めた経営で後継者が就農し、導入に意欲を見せている。JAと生産者の情報を密に取って導入を推進し、露地野菜の柱となる品目として食用ナバナの定着を目指す。

6 担当グループ

南部グループ、北部グループ

7 協力機関

君津市農業協同組合、全国農業協同組合連合会千葉県本部、株式会社サカタのタネ

(5) 木更津市の梨産地の維持・発展に向けて

—新しい担い手や女性農業者の技術向上とコミュニティの構築—

1 活動のねらい

新規参入者や女性農業者を対象にした実技および座学の研修会を行うことで、栽培技術の更なる向上および生産者コミュニティの構築を図った。

2 課題の背景

近年、木更津市の梨の生産者及び栽培面積はいずれも減少傾向にあり、産地を守るためには新しく参入した農業者や園主のパートナーやパートの女性農業者の育成が必要不可欠である。梨生産組合は、主に園主である男性による活動が中心となるため、特に女性農業者が集まって技術を学び、情報交換を通じてコミュニティを形成する機会は少ないのが現状である。このため、新規参入者や女性農業者が主体的に学び、技術の習得や生産者同士の関係の強化を図ることを目的に普及活動を行った。

3 普及活動の経過

(1) 梨の講習会の開催

基本的な栽培技術の習得や生産者間でのコミュニティの構築を目的に、主に新規参入者及び女性農業者を対象として講習会を開催した。

ア 摘果・新梢管理講習会（5月）

春の開花・着果状況について管内の情報を周知するとともに、摘果管理や新梢管理の基本的な手法を習得することを目的として、講習会を開催した。特に今年度は着果状況が良好であったことから、良果の選び方や着果間隔を中心に指導した。

イ 管内の優良事例視察（7月）

5月の講習会の中で、妻と共に参加したベテランの男性生産者が進んで新規及び女性農業者に対し自身の知見を交えて助言する場面が見られた。この生産者は認定農業者であり、圃場は年間を通じて管理が十分に行き届いていることから、今後地域の指導者として期待できた。そこで、高品質な梨生産のための樹の管理方法の習得を目的として、収穫期の直前に当たる7月に優良事例視察を行った。

ウ せんだい講習会（12月）

基本的な技術と花芽整理・予備枝の育成の手法を指導した。梨の樹形は各生産者で異なっており、せんだい講習会では技術体系に基づいた画一的な指導と合わせて、地域の生産者の実情に沿った内容を取り入れたいと考えた。そこで、参集範囲を広げ、新規参入者及び女性農業者の多くが加入している中郷梨組合の生産者にも参加を呼びかけた。

4 普及活動の成果

(1) 梨の講習会の開催

各講習会の開催を通じて、参加者同士で積極的なコミュニケーションを図りながら、適切なせん定方法や着果管理などの手法を学んでもらうことができた。講習会後の巡回では、各生産者が自身の手法を見直し、管理に取り組む様子が見られた。

ア 摘果・新梢管理講習会（5月）

管内の梨生産者8名の出席があった。当日は講義や実習を通じて着果量の目安や良い幼果の選び方について習得を図ることができた。特に実習では、参加者同士で自身の園の状況や手法について情報交換する様子が見られ、ねらい通りにコミュニケーションを活性化することができた。その後の巡回において、生産者が講習会で学んだ手法を実践している姿が見られ、基本的な管理の意識づけができたことを確認できた。



写真1 摘果講習会の様子

イ 管内の優良事例視察（7月）

管内の梨生産者8名の出席があった。園主から高品質な果実の生産に向けて実践している栽培管理について説明があり、参加者は実際に圃場を回りながら優良事例を学ぶことができた。特に、園主は積極的に改植を行う方針のため、多様な品種の特性や樹の管理について熟知しており、品種の転換が進んでいる現状において、参加者からは、豊富な知識がとても参考になったとの感想があった。



写真2 優良事例視察の様子

ウ セン定講習会（12月）

管内の梨生産者13名の出席があった。実習中は、経験のある生産者が他の生産者に助言したり、女性農業者同士で意見交換したり、積極的にコミュニケーションを取りながらセン定する様子が見られた。生産者からは「普段と違い他の生産者と話しながらセン定できて勉強になった」、「今年の冬から学んだ手法を実践したい」といった感想や、「幸水以外の品種のセン定や新梢管理について手法学びたい」という要望があった。



写真3 セン定講習会の様子

5 今後の発展方向と課題

新規及び女性農業者の育成については、引き続き栽培管理講習会を通じて技術の習得及びコミュニティの構築を図る。また、管内では梨の加工に興味を持つ女性農業者がいるため、販路の拡大に向けて視察等を検討する。

6 担当グループ

中央グループ

7 協力機関

木更津市農業協同組合、木更津市、木更津市農業委員会、農林水産部担い手支援課、生産振興課、販売輸出戦略課、農林総合研究センター果樹研究室

(6) 秋どりレタス、キャベツの安定生産に向けて

— 育苗時及び定植後の暑熱対策の検討 —

1 活動のねらい

夏季の高温下において秋どりレタス、キャベツを安定して生産するために、育苗時及び定植直後の暑熱対策について有用性を確認し、生産者に情報提供することを目的として試験を行った。

2 課題の背景

10月～11月収穫のレタスにおいて、近年の夏季の高温の影響とみられる発芽不良、育苗中及び定植後の枯死・葉焼けが発生し、まき直しによる種苗費・作業の負担、生産の遅れ等が生じ、計画通りの栽培が困難となっている。同様に、加工業務用キャベツの生産でも、近年の夏季の高温の影響から、苗の徒長や根の張り不足により、定植機で定植する際の作業性の低下や、定植後の活着不良や枯死がみられている。

3 普及活動の経過

(1) レタス栽培における暑熱対策について

ア 育苗時の暑熱対策の検討

レタス‘スパーク’を供試し、育苗時の育苗トレイ色と遮光資材の違いによる暑熱対策効果を比較した。表1のように色の違う育苗トレイと、遮光率等の違う被覆材を組み合わせ、試験区を設置した。地温、発芽・生存率、約2週間後の株張り、苗姿等を調査した。

表1 育苗試験の試験区について

		ネットの色及び遮光率 (%)			
		無遮光	白 (22%)	白 (35%)	黒 (35%)
育苗トレイ色	黒	A	B	C	D
	白	E	F	G	H
	白黒	I	J	K	L



写真1 各試験区の苗姿の比較

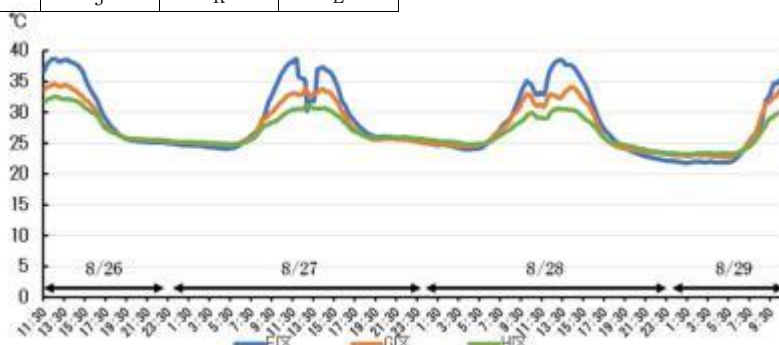


図1 遮光資材による地温の比較 (°C)

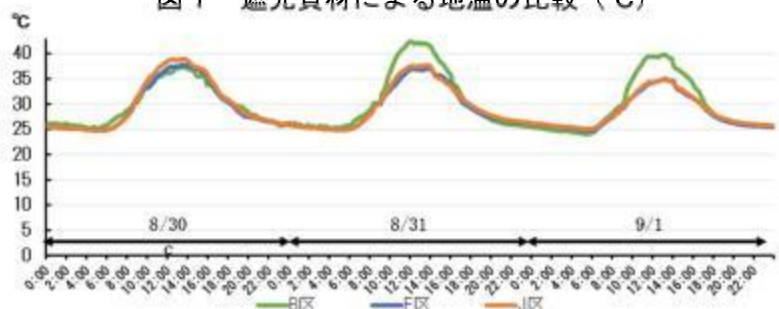


図2 育苗トレイによる地温の比較 (°C)

イ 定植後の暑熱対策の検討

袖ヶ浦市百目木地区ほ場にて、レタス‘スパーク’を供試し、表2のように試験区を設置し、BS資材「skeepon」施用及びマルチの効果を検証した。地温、収穫量（結球重・球形）等を調査した。同様の試験を同市大鳥居地区でも行った。

表2 定植後試験（百目木地区）の試験区について

		BS資材 (skeepon)	
		有	無
マルチ	黒	黒S区	黒区
	白黒	白黒S区	白黒区

表3 百目木地区 収穫物の重量、長径・短径・球高、球容積及び結球緊度

試験区	結球重 (g)	長径 (cm)	短径 (cm)	球高 (cm)	球容積(cm ³)	結球緊度 (g/cm ³)
白黒S区	305±43	17.5±1.8	16±2.2	12.9±0.9	1,887±303	0.163±0.024
白黒区	385±67	18.0±1.7	16.8±1.4	13.3±1.0	2,106±330	0.187±0.044
黒S区	275±62	16.8±1.6	15.0±1.4	12.6±1.0	1,680±331	0.164±0.023
黒(慣行)区	247±71	15.5±2.1	14.1±1.9	12.1±1.2	1,407±354	0.175±0.023

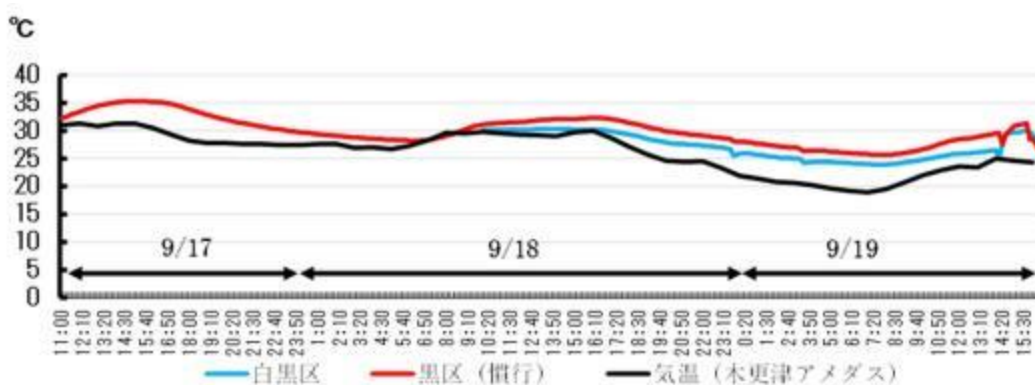


図3 百目木地区 マルチの違いによる地温及び気温との比較

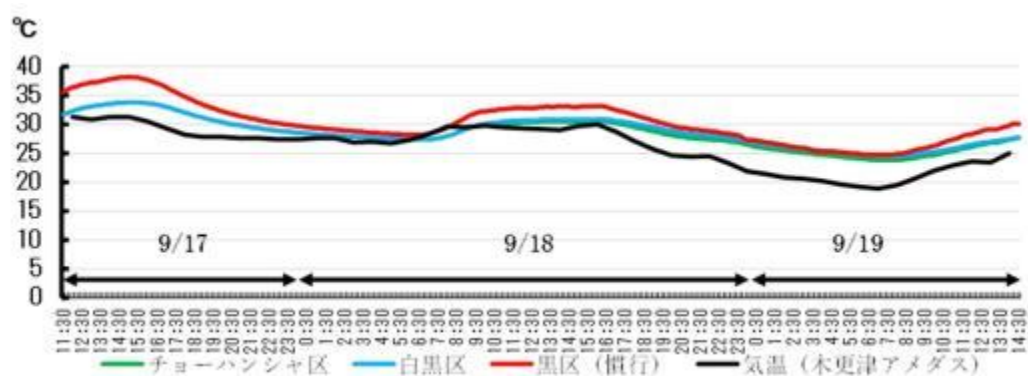


図4 大鳥居地区 マルチの違いによる地温及び気温との比較

(2) キャベツ栽培における暑熱対策の検討

ア 育苗時の暑熱対策の検討

各試験区3トレイの計24枚を供試し、育苗時の培土、育苗トレイの色、吸水ポリマー施用の有無による暑熱対策効果を比較した。下表のとおり試験区を設置し、発芽率調査及び苗調査（播種1か月後の草丈、葉数、最大葉の長さ、葉幅、育苗ハウス室温）を行った。

培土	育苗トレイの色	ポリマー施用	試験区名
与作 N-25	黒	有	A
		無	B
	白黒	有	C
		無	D
与作 N-15	黒	有	E
		無	F
	白黒	有	G
		無	H



写真2：苗調査時の生育比較

イ 定植後の暑熱対策の検討

「ア」で育苗した苗を生産者ほ場へ定植し、定植後の枯死率調査、生育調査（株張、葉数）、収穫物調査（調製重、球径、球高、結球緊度）を行った。

表4：苗調査（8/25）

	草丈(cm)	葉数(枚)	最大葉(cm)	葉幅(cm)
A	11.2	4.4	4.6	3.7
B	10.5	4.1	4.7	3.7
C	11.5	4.7	4.8	4.2
D	11.5	4.2	4.7	3.9
E	6.9	3.5	3.5	2.6
F	8.7	4.0	4.2	3.4
G	7.7	3.8	4.0	3.1
H	9.4	4.0	4.0	3.4

表5：枯死率調査（9/17）

	枯死率 (%)
A	8
B	35
C	34
D	27
E	3
F	3
G	1
H	0

表6：生育調査（9/17,10/3）

	9月17日		10月3日	
	葉数(枚)	株張(cm)	葉数(枚)	株張(cm)
A	7.1	19.0	12.5	49.6
B	7.5	18.1	14.0	49.6
C	7.2	16.5	14.1	47
D	7.3	18.2	13.6	50
E	8.5	17.6	14.3	51.2
F	8.5	19.8	13.6	50.5
G	8.5	18.8	14.2	54.4
H	8.6	19.2	14.1	54.2

表7：収穫物調査（11/21）

	調製重 (g)	球径(cm)		球高 (cm)	結球緊度 (g/cm ²)
		長径	短径		
A	1537 ±130	21	20	12	0.56
B	1639 ±110	21	20	13	0.60
C	1281 ±143	20	19	12	0.52
D	1486 ±130	20	20	12	0.58
E	1824 ±104	22	21	13	0.59
F	1415 ±81	20	20	12	0.58
G	1514 ±74	21	20	12	0.58
H	1527 ±72	21	20	12	0.60

4 普及活動の成果

(1) レタス栽培に有効な暑熱対策について

本研究では、レタスの育苗期および定植後における暑熱対策資材の効果を検証した。育苗期では、黒トレイを用いた区で発芽率・生存率が低く、株張り・苗姿も不良であった。地温も黒トレイ区で高温となり、生育不良の要因と推察された。一方、白および白黒トレイでは生育が良好であった。遮光資材において、白 22%は通気性の影響と考えられる地温の上昇で効果が乏しかった。白 35%および黒 35%では生育改善が認められたものの、黒 35%では徒長のリスクがあり、資材の開閉等の管理が必要と考えられた。定植後の試験では、白黒 W マルチが百目木地区で外葉数・株張り・結球重ともに良好で、欠株率も低かった。大鳥居地区では定植日や作業方法の差により収穫物による明確な差はなかったが、いずれの地区でも白黒 W マルチは黒マルチに比べ地温が低く遮熱効果が確認された。BS 資材については、生育及び収量で明確な効果は認められず、さらなる検証が必要と判断された。

(2) キャベツ栽培に有効な暑熱対策について

播種後約 30 日時点で、与作 N-2 5 を使用した A～D 区は葉色が濃く、若干徒長気味の苗姿となったのに対し、与作 N-1 5 を使用した E～H 区では苗姿がコンパクトとなった。育苗時に E～H 区で見られた黄化は定植後に回復したことから、栽培上の影響はないと考えられた。

定植後の生育評価については E～H 区では枯死率が極端に低く、生存株の初期生育も A～D 区と比較して順調であったことから、慣行の与作 N-2 5 よりも窒素含有量の低い培土を選択することで、活着率及び初期生育が改善する可能性が示唆された。

白黒トレイを用いた C 区、D 区、G 区、H 区で育苗期間中の生育が若干旺盛となったが、枯死率やその後の生育、収穫物における差は確認できなかった。

また、生育期間全体をとおしてポリマー施用の有無で明確な差は確認できず、期待された枯死率の低下にも効果がなかった。更なる検証や他事例の収集を行い、その効果について判断する必要がある。

5 今後の発展方向と課題

レタスにおいて、育苗時の暑熱対策資材については本調査で有用性が明らかとなったため、巡回や講習会等で改めて生産者や、JA きみつ育苗センターに周知していく。マルチの効果については単年度試験で結論付けるのは難しいため、次年度も引き続き調査を行う予定としている。

キャベツにおいても、得られた結果を生産者や関係機関に周知し、次年度以降も引き続き調査を行う予定である。

6 担当グループ

北部グループ

7 協力機関

君津市農業協同組合、農林水産部担い手支援課、
農林総合研究センター暖地園芸研究所、東総野菜研究室

(2) 青年農業者等スキルアップ研修の開催

経営毎に適した暑熱対策を検討するきっかけづくりとして、畜産総合研究センターにて、暑熱対策をテーマとした研修会を開催した。研修会では、畜舎屋根への対策や遮光対策等の様々な対策とその役割について座学研修を行った後、搾乳牛舎へ移動し、畜産総合研究センターで行われる対策について視察研修を行った。



写真3 暑熱対策に関する座学研修



写真4 搾乳牛舎視察研修

(3) 暑熱対策導入支援

管内酪農家1戸に対し、関係機関と連携して暑熱対策技術（牛舎屋根への遮熱資材（石灰乳剤※）塗布）の導入支援を行った。なお、当該農家に対しては、昨年度から継続して導入支援を行っている。

※石灰乳剤とは、畜舎除菌用のドロマイト石灰と水を混ぜ合わせたものであり、畜舎屋根へ塗布すると、輻射熱で畜舎内温度を下げる効果を発揮する。耐久性は1シーズン。



写真5 石灰乳剤を塗布した牛舎屋根

(4) 牛舎環境調査の実施

夏季の牛舎環境改善の一助とするため、6月～10月にかけて、管内酪農家4戸の牛舎環境調査を行った。調査項目は、風速、呼吸数、直腸温度、送風機設置位置、屋根裏温度等で、牛群検定加入農家については乳量の変化についても確認を行った。

4 普及活動の成果

(1) 暑熱対策技術の導入

牛舎屋根へ石灰乳剤を導入した酪農家は、その効果を実感したことがきっかけとなり、石灰乳剤とは異なる、耐久性が10年程度の遮熱資材を導入した。



写真6 耐久性が10年程度の遮熱資材を塗布した牛舎屋根

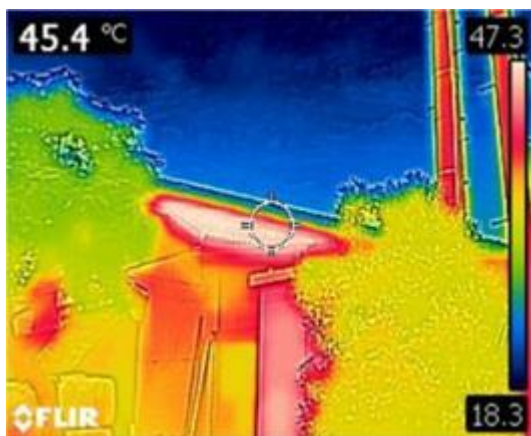


写真7 石灰乳剤導入前の屋根表面温度

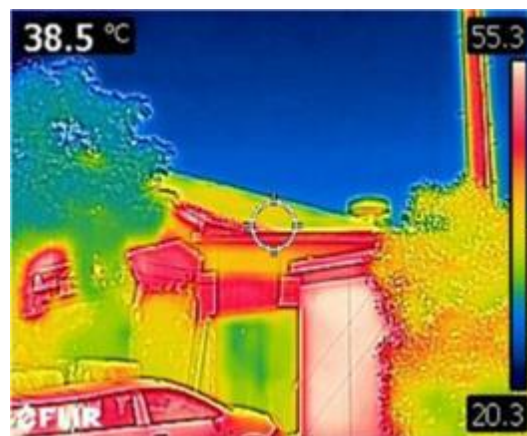


写真8 石灰乳剤導入後の屋根表面温度

(2) 牛舎環境の改善

昨年度から継続して調査を実施している酪農家は、牛床毎の風速の違いが明らかになったことがきっかけとなり、牛床に万遍なく風を送るため、送風機を追加導入した。また、一部で屋根散水を実施している酪農家においては、屋根散水の有無による屋根裏温度の違いが明らかになり、屋根散水の追加導入につながった。他2名においても、屋根散水や送風機を追加導入について検討する姿が見られた。

5 今後の発展方向と課題

夏季の乳量低下を抑制するため、経営毎に暑熱対策に取り組んでいるものの、管内酪農家12戸の令和7年8月の日平均乳量(kg/頭)は、年間平均乳量(kg/頭)と比較して9.6%低い結果となった。このため、今後も引き続き、暑熱対策技術に関する情報提供や牛舎環境調査を行うことで、暑熱対策に対する意識づけや夏季の牛舎環境改善を図っていく必要がある。

一方で、年間通して高い乳量を維持しつつ、夏季の乳量低下を抑制できている優良農家がいる。このため、優良農家と平均的に夏季の乳量低下が見られる農家において、導入している対策やその効果について調査し、その違いを明らかにすることで、生産性向上の一助とする。

また、後継者や若手酪農家を中心に、トンネル換気等のハード面の対策への関心が高まっているため、県内で先進的に導入している酪農家への視察研修会を開催すること等により、導入の検討の一助とする。

6 担当グループ

北部グループ

7 協力機関

君津市農業協同組合、千葉県みるく農業協同組合、農林水産部担い手支援課、南部家畜保健衛生所衛生指導課、畜産総合研究センター(乳牛肉牛研究室、嶺岡乳牛研究所)

2 普及現地情報(一般情報)

イチゴ若手生産者でオリジナルのぼり旗を作成しました！

～のぼり旗を旗印に地域一丸となったPRを実施！！～

君津農業事務所改良普及課 令和7年5月13日発

農業事務所では、令和5年からイチゴの販売力向上に向けた研修会を実施しています。令和6年5月若手生産者を対象にPR資材作成研修会を開催したところ、生産者、関係機関含め15名が参加しました。そこで、関心のある資材についてヒアリングを行った結果、のぼり旗の要望が多く、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市の4市で使える共通デザインののぼり旗を作成することになりました。4市のマスコットキャラクターを使用することやキャッチコピーとして「房総いちご」を入れるデザイン案がまとまり、若手生産者がデザイナーとの交渉も行いました。令和7年3月に完成したのぼり旗はメンバーの直売所やほ場に掲げられ、参加者からは地域のまとまりを感じたと意見がありました。

7年度はJAきみつ苺部会全体に配付を予定しています。農業事務所では、今後もイチゴ産地の振興、生産者の所得向上に向けて取り組んでいきます。



PR資材作成研修会の様子



直売所へ設置したのぼり旗

高温対策資材研修会を実施しました！

～「バイオスティミュラント」ってなに？～

君津農業事務所改良普及課 令和7年9月24日発

昨年の夏季の異常高温により、キャベツやレタスなどの露地野菜において、定植後の枯死や生育不良が頻発し、深刻な問題となりました。君津農業事務所では7月31日、近年注目を集めるバイオスティミュラント資材（以下BS資材）の効果的な活用方法を学ぶ研修会を開催したところ、生産者や関係機関の担当者など24名の出席がありました。

当日は農業事務所から、BS資材の基本的な仕組みや期待される効果についての説明を行った後、4種類のBS資材について、各メーカーの講師から講義がありました。参加者からは「どのタイミングで使うべきか」「他の資材との併用は可能か」など、実践的な質問が多数寄せられ、関心の高さがうかがえました。また複数の生産者から、今後の試験導入に前向きな声も聞かれました。農業事務所では今後も研修会の開催等を通じて、農業経営の改善に向けた支援を行っていきます。



研修会の様子



資材の試験も実施しています

ナバナの生産振興に取り組んでいます！

～新規栽培者の発掘から出荷までの伴走支援～

君津農業事務所改良普及課 令和7年12月18日発

君津地域は県内でも水田率が高く、以前から水田裏作としてナバナが生産されていますが、更なる生産振興を図るため、初心者でも取り組みやすく、調製の手間が少ないバラ出荷^{*}に注目し、JA きみつ広報誌を通じて新規栽培者の募集を広く呼びかけました。

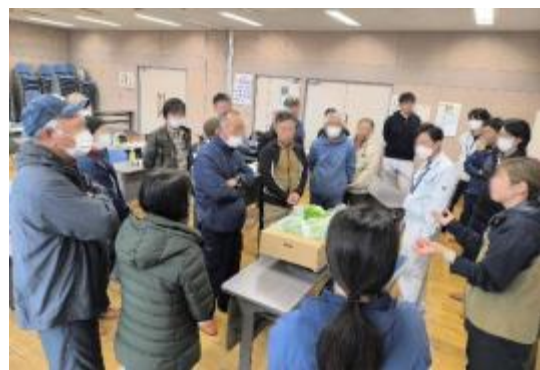
希望者を栽培講習会、畝立て講習会で基礎的内容から指導したところ、新たに16名が計1.24haの栽培に取り組み、面積は既存の2haから1.6倍に拡大しました。安定生産のため暑い時期を避けた移植栽培とし、個別巡回指導を重ねた結果、生育は順調です。

12月には管内生産者のほ場見学と出荷目合せ会を開催し、収穫方法や調製方法について理解を深めました。出荷箱・内袋、出荷手数料はJAが負担、シーズンを通して単価が決められている点も魅力です。農業事務所では、ナバナが地域の基幹品目となるよう、引き続き関係機関と連携し、生産者の確保から栽培指導まで取り組んでいきます。

※既定の長さに切りそろえたナバナをバラの状態段ボールに入れて出荷する。既存のナバナの出荷形態で最も調製の手間が少ない。



畝立て講習会の様子



出荷目合せ会の様子

君津をミモザの産地に！ ～ミモザ新規生産者への栽培支援～

君津農業事務所改良普及課 令和8年1月28日発

君津農業事務所では、令和6年度から君津市、JA きみつと連携して、農業者の所得向上、耕作放棄地の解消、地域の活性化のためミモザアカシアの新規栽培を推進しています。

ミモザアカシアは、3月8日の国際女性デーのシンボルとして近年注目を集め、市場の需要が高まっています。昨年度は、ミモザの栽培・出荷説明会、ほ場見学会、ほ場選定のための個別巡回を実施しました。今年度は、春にミモザを定植した33戸を対象に、病害虫及び排水対策、先輩生産者の体験談、防寒対策などを盛り込んだ研修会の開催や個別巡回を実施した結果、半数以上が順調に生育しています。また、今後市場視察研修・収穫調整研修を開催する予定で、今春、数名が出荷開始となる見込みです。

来年度の本格出荷開始に向けて、関係機関と協議を重ね、今後も継続的に支援をしてまいります。



排水対策実演会の様子



ミモザアカシアの花

水稻栽培講習会を実施しました！

～高温対策、斑点米カメムシ類対策を中心に～

君津農業事務所改良普及課 令和8年2月9日発

近年の水稻栽培においては、生育期間中の高温やカメムシ類の吸汁被害による米の品質低下が問題になっています。この対策を学ぶ機会として、君津農業事務所では1月26日に水稻の栽培講習会を実施し、生産者と関係機関を合わせて32名が出席しました。昨年6月にも同じテーマで講習会を実施しましたが、1月の講習会では令和7年の気象や米の等級比率、カメムシ類調査結果、資材施用試験の結果といった直近のデータや傾向を用いて高温障害の対策、カメムシ類被害の対策などを説明しました。

質疑応答の際にはカメムシ類防除のタイミングや農薬の効果が持続する期間について等、具体的で活発な質問があり、カメムシ類対策へ取り組む意識の高さが伺えました。また、アンケートから、高温対策資材についても今後の情報提供を求める声がありました。農業事務所では引き続き講習会等を通じて高品質な米づくりを支援します。



水稻講習会の様子



高温対策試験ほ設置の様子（6月）

3 令和7年度の主なできごと

月 日	内 容	場 所
4月4日	ブロッコリー栽培講習会	J Aきみつ本所
4月8日	君津4市4Hクラブ連合会定例会 (4/8、5/13、6/10、7/8、8/5、9/9、10/14、11/11、12/9、 1/13、2/10、3/10)	袖ヶ浦市平川交流センター、 袖ヶ浦市農業センター
4月11日	ミモザ巡回 (4/17、23、28、5/15、22、6/17、7/17、25、8/19、9/9、24、 1/5、2/9、3/10)	君津市内
4月22日	いんげんグリーンタッキー出荷査定会(10/28)	J Aきみつ小櫃経済センター
4月24日	カラー査定会	J Aきみつ小糸経済センター
4月25日	ニンニク販売検討会	J Aきみつ周南支店
4月30日	ハウスインゲン出荷査定会(袖ヶ浦市園芸組合)	J Aきみつ平川経済センター
5月1日	そらまめ出荷査定会	J Aきみつ平川経済センター
5月1日	梨摘果・新梢管理講習会	木更津市内
5月7日	だいこん現地検討会	袖ヶ浦市内
5月9日	インゲン出荷査定会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター
5月9日	木更津市観光ブルーベリー協議会全体会議	富来田公民館
5月16日	J Aきみつキュウリ査定会	君津市
5月16日	J G A P 認証取得に向けた審査・準備(5/16、7/11 9/5、 9/17、10/6、23 1/16、2/10、3/2)	J Aきみつ 富津集出荷場他
5月19日	J Aきみつブルーベリー査定会	J Aきみつ平川経済センター
5月20日	プリンスメロン出荷査定会	J Aきみつ富津経済センター
5月22日	乳質巡回(5/28、6/3)	君津管内農場
5月23日	学校給食米講習会	木更津市
5月26日	トウモロコシ出荷査定会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター
5月27日	農業経営体育成セミナー開講式	君津合同庁舎
5月28日	天羽ふるさと館総会	J Aきみつ天羽経済センター
5月29日	袖ヶ浦市酪農組合通常総会	袖ヶ浦市農業センター
5月29日	袖ヶ浦市酪農クラスター協議会通常総会	袖ヶ浦市農業センター
5月30日	ミモザ出荷反省会(君津市小糸花卉園芸組合)	J Aきみつ小糸経済センター
5月30日	パレイショ出荷査定会(袖ヶ浦市園芸組合)	J Aきみつ平川経済センター
6月2日	J A木更津市ブルーベリー部会出荷査定会	J A木更津市富来田経済センター
6月3日	袖ヶ浦市農業士・指導農業士連絡協議会 総会	袖ヶ浦市内
6月4日	インゲン収穫作業(農福連携事業) 5/20	君津市
6月4日	ミモザ排水対策研修会	君津市
6月9日	木更津市有機農業協議会総会	木更津市内
6月9日	水稻高温対策栽培研修会	君津合同庁舎
6月10日	J Aきみつ味楽団直売部会通常総会	かずさアカデミアホール
6月12日	とうもろこし出荷査定会(袖ヶ浦市園芸組合)	J Aきみつ平川経済センター
6月12日	W C S 用稲栽培及び収穫に関する説明会	袖ヶ浦市農業センター
6月13日	袖ヶ浦市園芸組合第51回通常総会	袖ヶ浦市農業センター
6月20日	カラー出荷反省会(君津市小糸花卉園芸組合)	J Aきみつ小糸経済センター
6月24日	J Aきみつ畑作研究会総会	袖ヶ浦市内
6月24日	農業経営体育成セミナー(ハウス施工講習)	農林総合研究センター
6月25日	君津合同庁舎マルシェ	君津合同庁舎
6月25日	第1回農業実践力向上研修(交流会)	君津合同庁舎
6月25日	農事組合法人袖ヶ浦W C S 通常総会	袖ヶ浦市農業センター
6月26日	木更津市G A P 研修会	君津合同庁舎
6月27日	レタス・タアサイ栽培講習会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター

3 令和7年度の主なできごと

月 日	内 容	場 所
6月27日	小糸在来®愛好クラブ通常総会	君津市内
6月30日	ナバナ栽培講習会、土壌改良研修会	J Aきみつ天羽購買店
7月1日	中郷梨組合栽培講習会	J A木更津市中郷経済センター
7月2日	いちご現地検討会	君津市内、袖ヶ浦市内
7月3日	袖ヶ浦市酪農研究会通常総会	袖ヶ浦市内
7月3日	アジサイ剪定講習会	君津市
7月3日	J Aきみつ小櫃養鶏部会通常総会	J Aきみつ小櫃支店
7月3日	J Aきみつ小櫃養鶏クラスター協議会通常総会	J Aきみつ小櫃支店
7月3日	農業経営体育成セミナー基本研修 (8/4、10/1、11/14、1/30)	君津合同庁舎他
7月6日	君津4市4Hクラブ連合会トウモロコシ収穫体験	袖ヶ浦市内
7月7日	いきいき帰農者等研修会(トマト) (8/18、11/28)	富津市内等
7月8日	袖ヶ浦市稲作研究会総会	袖ヶ浦市農業センター
7月8日	ナバナ栽培講習会	J Aきみつ周南支店
7月8日	梨栽培講習会第2回(高温対策)	木更津市内
7月9日	第1回青年農業者等スキルアップ研修(酪農)	畜産総合研究センター
7月9日	ナバナ栽培講習会	袖ヶ浦市農業センター
7月10日	レタス栽培講習会(袖ヶ浦市園芸組合)	袖ヶ浦市農業センター
7月14日	君津市農業議技術者連絡会議	君津市役所
7月14日	農業経営体育成セミナー(農業機械安全講習)	農業大学校機械化研修班
7月15日	ブルームネット通常総会	J Aきみつ本店
7月15日	ミモザ講習会	君津市
7月16日	J Aきみつ苺部会 三好研修会	J Aきみつ本店
7月18日	小糸イチジク組合総会	J Aきみつ小糸経済センター
7月22日	いんげんグリーンタッキー出荷反省会	J Aきみつ小櫃経済センター
7月23日	小糸花卉園芸組合総会	J Aきみつ本店
7月23日	水稻採種ほ場審査(小櫃地区)	J Aきみつ小櫃経済センター
7月24日	水稻採種ほ場審査(君津地区、富津地区)	木更津市内ほ場、君津市内ほ場、 J Aきみつ富津経済センター
7月24日	だいこん栽培講習会(袖ヶ浦市園芸組合)	袖ヶ浦市農業センター
7月25日	水稻採種ほ場審査(小糸地区)	J Aきみつ小糸経済センター
7月25日	令和7年度袖ヶ浦市園芸組合視察研修会	千葉市
7月28日	さといも視察	J Aきみつ平川経済センター
7月29日	小糸採種組合総会	君津市内
7月29日	袖ヶ浦市園芸組合果樹部会総会	袖ヶ浦市農業センター
7月31日	高温対策研修会	袖ヶ浦市農業センター
7月31日	水稻採種ほ場審査(小櫃地区)	J Aきみつ小櫃経済センター
7月31日	小櫃採種組合総会	君津市内
8月1日	第23回木更津市園芸出荷組合通常総会	J A木更津市中郷経済センター
8月1日	キャベツ出荷反省会	J Aきみつ平川経済センター
8月1日	水稻採種ほ場審査(小糸地区)(8/5)	J Aきみつ小糸経済センター
8月4日	水稻採種ほ場審査(君津地区・富津地区)	君津市内ほ場、富津市内ほ場
8月4日	農業経営体育成セミナー専門研修(11/14、1/30、2/10)	君津合同庁舎他
8月5日	幸水出荷査定会 (8/5 中郷梨組合、8/5 矢那梨組合、8/6 富来田梨栽培者組合)	木更津市内
8月5日	木更津市園芸出荷組合通常総会	J A木更津市中郷経済センター
8月5日	ナバナ新規栽培者畝立て研修会	袖ヶ浦市農業センター

3 令和7年度の主なできごと

月 日	内 容	場 所
8月6日	イチジク視察研修会	J Aきみつ小糸経財センターから市原方面
8月7日	君津採種組合総会	君津市
8月7日	富津市農業技術連絡会	富津市
8月8日	君津園芸組合通常総会	君津市
8月8日	J Aきみつ小櫃園芸部会 通常総会	J Aきみつ小櫃経済センター
8月26日	豊水査定会(中郷梨組合、8/28 矢那梨組合)	木更津市内
8月26日	大豆採種ほほ場審査(開花期)(9/2, 11)	J Aきみつ君津種子生産組合
9月17日	台風対策講習会	袖ヶ浦市農業センター
9月18日	ニンニク栽培講習会	J Aきみつ周南支店
9月29日	カラー暑熱対策現地検討会	君津市内
10月7日	小糸在来出荷査定会	J Aきみつ小糸経済センター
10月8日	農山漁村男女共同参画君津地域推進会議、君津地域セミナー	君津合同庁舎
10月10日	加工業務用ブロッコリーほ場巡回(10/10、11/5、11/20、12/9、1/16、2/10)	富津市内
10月14日	野里・大和田集落営農視察	横芝光町篠本新井
10月14日	農業士・指導農業士経営訪問(新規就農者交流会)	木更津市他
10月15日	木更津市有機農業推進協議会総会	木更津市
10月15日	さといも目合せ会	J Aきみつ平川経済センター
10月16日	袖ヶ浦市農業士・指導農業士連絡協議会 視察研修会	茨城県
10月18, 19日	小糸在来オーナー引渡し式	君津市内
10月20日	袖ヶ浦市自然薯部会販売検討会	J Aきみつ平川経済センター
10月21日	農業経営体育成セミナー専門研修(11/14、1/30、2/10)	君津合同庁舎他
10月21日	キュウリ査定会	JA 木更津市下郡集荷場
10月24日	自然薯試し掘り試食会	君津市清和
10月26日	君津地域女性農業者マルシェ	海ほたる
11月1日	かずさファームフェスタ	袖ヶ浦市内
11月4日	青首だいこん査定会(袖ヶ浦市園芸組合)	J Aきみつ平川経済センター
11月5日	第2回青年農業者等スキルアップ研修(酪農)	東庄町
11月5日	木更津市有機農業推進協議会視察研修	茨城県
11月7日	地域農業を知る会(君津青葉高校、11/10 君津高校)	木更津市他
11月8日	南房総いいものマルシェ	三井アウトレットモール木更津
11月8日	第2回農業実践力向上研修	三井アウトレットモール木更津
11月11日	秋冬レタス査定会	J Aきみつ平川経済センター
11月13日	J Aきみつ畑作研究会視察研修会	サカタ打越農場見学
11月14日	農業経営体育成セミナープロジェクト学習・営農計画中間発表及び意見発表会	君津合同庁舎
11月15日	木更津市農産物共進会	J A木更津市本店
11月19, 20日	レタス一斉巡回(木更津市園芸出荷組合)	木更津市内
11月20日	第1回君津4市4Hクラブ連合会視察研修会	茨城県
11月25日	レタス出荷査定会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター
11月25日	J Aきみつ稲作部会反省会	J Aきみつ周南支店
11月25, 26日	千葉県農業士協会君津支部県外視察研修会	宮崎県
11月26日	第3回農業実践力向上研修(フラワーアレンジメント、グループディスカッション)	君津合同庁舎
11月27日	J A木更津市中郷梨組合総会	木更津市内
11月27日	木更津市ブルーベリー協議会総会	木更津市富来田公民館

3 令和7年度の主なできごと

月 日	内 容	場 所
11月28日	大豆採種ほほ場審査(成熟期)	J Aきみつ君津種子生産組合
11月28日	抑制トマト栽培反省会	J Aきみつ富津経済センター
12月1日	ミモザ研修会(出荷)	J Aきみつ小糸経済センター
12月2日	関東甲信静ブロック 青年・中堅改良普及職員研修会	木更津市、袖ヶ浦市内
12月4日	セレベス査定会(袖ヶ浦市園芸組合)	J Aきみつ平川経済センター
12月10日	J Aきみつ苺部会 栽培講習会	J Aきみつ本店
12月5日	J Aきみつ農業まつり農畜産物品評会	袖ヶ浦市役所
12月5日	タアサイ出荷査定会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター
12月11日	袖ヶ浦市園芸組合運営委員・支部長合同役員会	袖ヶ浦市農業センター
12月12日	梨剪定講習会	木更津市内
12月16日	内房地区 J A酪農協議会講習会	袖ヶ浦市内
12月17日	インゲン栽培講習会	J Aきみつ小櫃支店
12月17日	集落営農視察研修会(ゆい)	旭市
12月18日	イチジク講習会(施肥)	J Aきみつ小糸経済センター
12月19日	トウモロコシ・ハウスインゲン栽培講習会 (木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市中郷経済センター
12月24日	きみつ農業いきいき交流会	かずさアカデミアパーク
12月24日	君津市認定農業者協議会農業懇談会	かずさアカデミアパーク
1月9日	露地インゲン栽培講習会(木更津市園芸出荷組合)	J A木更津市富来田経済センター
1月16日	J Aきみつ採種組合反省会・勉強会 (小糸 1/16 小櫃 1/21)	君津市内
1月20日	ナバナ出荷査定会	J Aきみつ天羽購買店
1月20日	ハウスインゲン栽培講習会(袖ヶ浦市園芸組合)	袖ヶ浦市農業センター
1月20日	君津市農業連携振興会議	君津市役所
1月23日	袖ヶ浦市技術者連絡会議	袖ヶ浦市農業センター
1月26日	水稻栽培技術講習会	木更津市民総合福祉会館
1月27日	木更津市有機農業推進協議会臨時総会・栽培講習会	木更津市
1月30日	君津市認定農業者協議会通常総会	君津市役所
2月3日	きみつ農業女子ネットワーク通常総会・講習会	木更津市民総合福祉会館
2月3日	袖ヶ浦市園芸組合ニンジン査定会	J Aきみつ平川経済センター
2月3日	レタス査定会	J Aきみつ小櫃経済センター
2月4日	経営研修会	袖ヶ浦市農業センター
2月5日	農業経営体育成セミナー先進地視察研修会	安房地域
2月10日	富津青壮年部農生会通常総会	J Aきみつ富津経済センター
2月10日	矢那園芸研究会総会	J A木更津市清川支店
2月11日	ミモザ市場視察研修会	大田市場
2月12、13日	君津4市4Hクラブ連合会視察研修会	広島県
2月13日	インゲン講習会	袖ヶ浦市農業センター
2月16日	天羽園芸部会総会	天神山コミュニティーセンター
2月18日	J A木更津市水稻栽培講習会	富来田公民館
2月24日	サツマイモ視察研修会	印旛方面
2月25日	君津種子組合反省会	君津市
2月26日	なごみの里総会	君津市内
2月26日	J Aきみつ君津稲作部会 総会	J Aきみつ本店
2月26日	J A木更津市ブルーベリー部会 総会	木更津市内
3月5日	農業経営体育成セミナープロジェクト・営農計画 発表会及び閉講式	君津合同庁舎

3 令和7年度の主なできごと

月 日	内 容	場 所
3月10日	千葉県農業士協会君津支部第47回通常総会	君津合同庁舎
3月10日	梨の開花・受粉に関する現地検討会	木更津市内
3月10日	君津4市4Hクラブ連合会総会	袖ヶ浦市農業センター
3月11日	君津地区指導農業士会総会及び研修会	君津合同庁舎

令和7年度 普及指導活動の実績
君津地域の多様な農業の振興
(普及情報活動事業 No. 32)

発行日 令和8年3月

発行 君津農業事務所

〒292-0833 千葉県木更津市貝渕3-13-34

TEL 0438-23-0299

FAX 0438-23-6698